

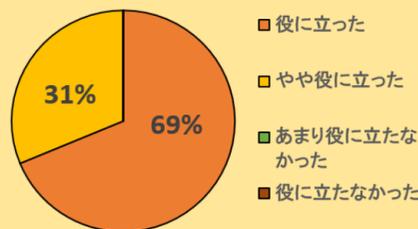
5. 地域探究プログラム「オリエンテーション合宿」を振り返って（アンケート）

【参加した生徒から】

問1：あなたは、3学期の「総合的な探究の時間」の授業や「学校生活」において、「地域探究プログラム（オリエンテーション合宿）」で体験したことは役に立ちましたか。

【自由記述】

- 意見を出すための方法やその意見をまとめる方法を知ることができた。それが学校での探究活動の役に立った。
- 物事の考え方が広がった。
- 同じ意見を尊重したり、意見を相手に伝えたりする能力が上達した。
- グループ活動をするときは、お互いの得意なこと、苦手なことを知り、協力し合うことが大切であると気づくことができた。
- 学校でも工夫できるところがあるか考えるようになった。自分の意見をもつという意識をもてた。
- 地域についての理解を深め、考えることはとてもよい経験になった。
- 地域の中での改善点を見つけたり、改善するためにどうしたら良いか考えを共有することで自分たちで考える力をつけるのに役立った。
- この活動を通して、私が知らない職業がたくさんあることを知った。もっとたくさんの職種を知って自分に合うものを見つけたいと思った。
- 進路先を改めて考えるきっかけとなったり、ここをもっとこうすれば良くなるのではないかと無意識のうちに考えていたり大きな変化となった。

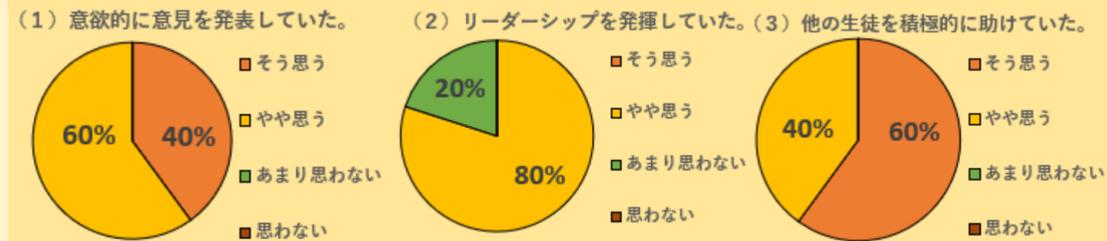


問2：あなたは、「オリエンテーション合宿」の前と後で、自分自身の変化がありましたか。前と後の様子をお書きください。

合宿前	合宿後
①積極的ではなかった。	①前より気配りができるようになり、積極的になった。
②自分の意見を心の中にしまうことが多かった。	②少しだけ自分の意見を出せるようになった。
③意見を持っていても自分からは言わなかった。意見をうまくまとめられなかった。	③前よりは意見を自分から言うようになった。
④周りの意見を聞くだけだった。	④周りの人を観察をよくするようになった。自分から発言を意識してするようになった。
⑤グループ活動で意見を聞くことが多かった。自分の住んでいる地域について全然知らなかった。	⑤グループ活動で、間違いをおそれず発言できるようになった。普段の生活で「なぜ」「どうして」を追求できるようになった。
⑥コミュニケーションをとるのが苦手だった。課題解決能力が低かった。	⑥コミュニケーション能力が上がった。課題解決能力が上がり、様々なことを疑問に思ったり、解決しようと考えられるようになった。
⑦話し合いなどであまり自分の意見が言えなかった。人前での発表が苦手で行動が遅かった。	⑦合宿中に話し合いをたくさんして自分の意見を言ったり人の意見についても聞いたり考えたりしてたくさん発言できるようになった。生活スタイルが整い、テキパキ行動できるようになった。
⑧地域について知らなかった。	⑧地域のサポートをしたいと思うようになった。
⑨地域のことについて興味、関心が全くなかった。	⑨自分の周りの地域のことが気になるようになった。
⑩何か疑問をもって、そのままにしていた。	⑩疑問をもったらすぐに調べるようになった。
⑪難しい感じがして、あまり「課題」について関わろうとしなかった。	⑪日常の中でも課題を探し、見つけるようになった。

【先生方から】

問1：「地域探究プログラム（オリエンテーション合宿）」に参加した生徒の3学期における「総合的な探究の時間」及び学校生活での様子について聞きます。



問2：先生から見て、参加した生徒が意欲的に意見を述べたり、リーダーシップを発揮したりした場面があれば具体的にお書きください。

- 授業中に意欲的な発言がみられた。
- 校内で行われた講演会で、講師の方に自分から質問をした生徒がおり、意欲的になったと感じた。
- 探究活動のテーマへの取り組みや、その目的、進捗状況の報告、発表の際、とても意欲的、主体的に意見を述べていた。班別行動や探究の際も、周囲の級友によく協力し、発表やまとめの中心になることもあった。

問3：先生から見て、「地域探究プログラムオリエンテーション合宿」の前（2学期）と後（3学期）で学級の雰囲気に変化がありましたか。

合宿前の学級の様子	合宿後の学級の様子
①最低限の交流はしていたが、活発とは言えないような面もあった。	①意見交換の際には積極的に相談できている様子を見る機会が増えた。
②探究活動には、基本的にまじめに取り組んでいたが、少し受け身的な様子が見られた。	②以前よりも積極性や協調性が高まったように思う。良い意味で、自分の意見や考えを発表しやすくなったようにも見えた。
③人前で話することに抵抗がある生徒が多くみられた。	③合宿に参加した生徒の中には人前で話すことが大変苦手な生徒もいたが、合宿でサポートしてもらいながら発表等ができたことで自信がついたものもいた。周囲にも良い影響があった。
④合宿前の学級の様子の記載なし	④「小さな優しさ」が以前よりも多くなった気がする。

■問合せ先： 国立赤城青少年交流の家
担当：企画指導専門職

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27
TEL：027-289-7224
FAX：027-289-7226



HP：<https://akagi.niye.go.jp/>

国立赤城青少年交流の家

検索



令和4年度 全国高校生体験活動顕彰制度



「地域探究プログラム オリエンテーション合宿 in 赤城」



～今よりももっと
自分に自信をもつことができる～

連携校：群馬県立沼田女子高等学校
日時：令和4年12月26日（月）～27日（火）

「高校生が絵本をつくってみた！」

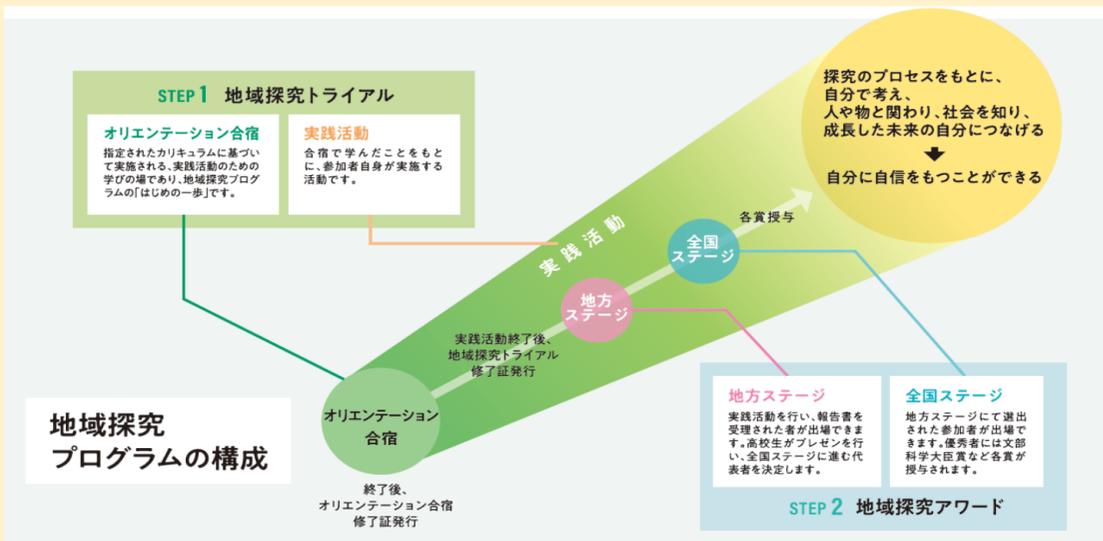


前橋市立前橋高等学校2年
大谷さん、齋藤さん、鈴木さん、福田さん、山本さん

地方ステージ in
国立赤城青少年交流の家
グループ部門 努力賞受賞

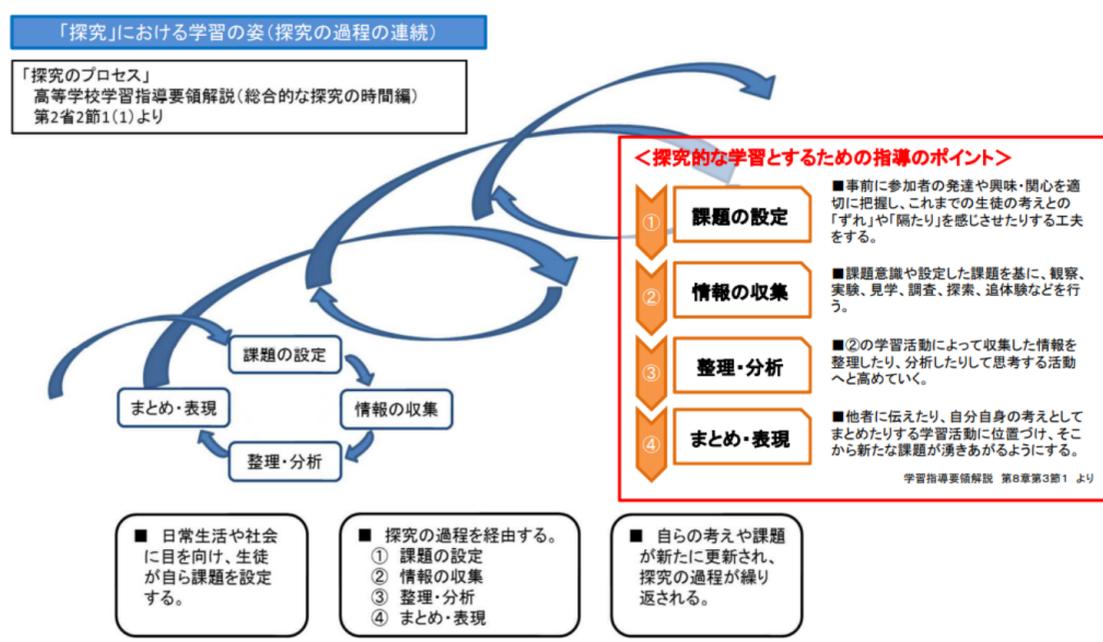
1. 地域探究プログラムの構成

「地域探究プログラム」は、高校生生の体験活動を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度です。取り組みを段階的に分けており、ステップⅠ「地域探究トライアル」とステップⅡ「地域探究アワード」から構成しています。「地域探究トライアル」では「探究」の学びと実践を、そして「地域探究アワード」では意欲の高い高校生向けに実践活動の顕彰を行います。



出典：全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」運営に関するガイドライン（2022年7月）

2. オリエンテーション合宿で学ぶ「学びのサイクル」



出典：全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」運営に関するガイドライン（2022年7月）

3. オリエンテーション合宿の実施例（連携校：群馬県立沼田女子高等学校）

【ガイダンス・事前学習を学校にて実施】※日程は、学校の年間指導計画に応じて、柔軟に対応します。

回	カリキュラム科目	学校にて、ガイダンス等を実施
1	ガイダンス	1回：施設職員が、「地域探究プログラム」について説明。
2	講話等「地域づくりの実践」	2回：講師の方が、地域活性化へ向けた取り組みを紹介。「地域活性化」について、参加者自身が深く調べたいテーマを設定。

【オリエンテーション合宿を施設にて実施】※2泊3日または1泊2日で実施

回	カリキュラム科目	施設にて、「探究のプロセス」を体験する科目を実施合宿では、
3	フィールドワーク①「地域の魅力を発見」	3回：講師と一緒に、沼田市内で多機能型事業所を見学。作業体験。
4	講義・演習①「地域理解」	4回：体験した活動から、多機能型事業所の魅力や課題について考察。
5	講義・演習②「課題解決の基礎」	5回：考察から、「多機能型事業所活性化プラン」のアイデアを考案。
6	フィールドワーク②「地域課題の探究」	6回：講師も交え「多機能型事業所活性化プラン」の練り直し。
7	講義・演習③「地域課題の探究」	7回：発表に向けて、資料作成。
8	発表①	8回：施設で合宿のまとめとして、企画発表。 ※2年生17名が合宿に参加

【合宿後の活動を学校にて実施】※2学期の授業に合わせて、日程を調整します。

回	カリキュラム科目	学校にて、実践活動の事後学習を実施
9	講義・演習④「行動計画の基礎」	9回：合宿で学んだことを活かし各自の探究活動の計画を立てる。
10	発表②	10回：学級ごとに各自の計画を発表。
11	実践活動のためのガイダンス	11回：実践活動に取り組む上での注意事項を確認し、実践活動を実施。 ※施設職員が学校を訪問し、合宿後の事後学習を支援

活動の様子は、こちらからご確認ください。

国立赤城青少年交流の家
公式You Tube チャンネル
ササビーチャンネル

オリエンテーション合宿の様子

<https://www.youtube.com/channel/UCWIrCRSiXIt1fIZ3E7l4Qxw>

(合宿後の活動の様子も一部ご覧になれます。)

<https://akagi.niye.go.jp/wp-content/uploads/2023/02/R4ori.pdf>

4. 連携（2年間）後の高校の取り組み（R2~R3連携：前橋市立前橋高等学校）

【ガイダンスを学校にて実施】※学校の取り組みを施設職員が支援します。

回	カリキュラム科目	学校にて、ガイダンス等を実施
1	ガイダンス	1回：施設職員が、「地域探究プログラム」について説明。

【学校主導の合宿を施設にて実施】※1泊2日で実施

回	カリキュラム科目	施設にて、「探究のプロセス」を体験する科目を実施合宿では、
2	ワークショップ・講話等「地域づくりの理解と課題設定の基礎」	2回：赤城山大沼周辺で「赤城山観光」を体験
3	講義・演習①「地域づくりと探究」	3回：体験した活動から、赤城山の魅力や課題について考察。考察から、「赤城山活性化プラン」のアイデアを考案。発表に向けて、資料作成。
4	発表①	4回：施設で合宿のまとめとして、企画発表。 ※2年生29名が合宿に参加

【合宿後の活動を学校にて実施】

回	カリキュラム科目	学校にて、実践活動の事後学習を実施
5	講義・演習②「地域課題の探究」	5回：合宿で学んだことを活かし「前橋市活性化プラン」をすすめる。
6	発表②	6回：学級ごとに「前橋市活性化プラン」を発表。
7	実践活動のためのガイダンス	7回：実践活動に取り組む上での注意事項を確認し、実践活動を実施。 ※合宿に参加した生徒が各クラスを中心として活動

課題解決のための仮説と計画

私たちは、前橋市まちづくり公社の「まえばし1-1プロジェクト」という活動の認知度が低いという課題を克服するために、

1（まえばし1-1プロジェクト）の活動内容を知ってもらうために、

「まえばし1-1プロジェクト」の活動内容を知ってもらうには何かきっかけが必要と考え、今回、小学校の低学年の児童を対象とした活動を行うことになり、「まえばし1-1プロジェクト」の活動は、小学生の児童が主体的に活動できるような活動にしたいと考え、小学校の児童が、この年代に設定することで、小学生の児童が主体的に活動できるような活動にしたいと考えました。この活動は、活動を行う一歩を踏んで低学年の児童に自分たちの意見を積極的に発表してもらい、それと同時に自分たちの活動内容が地域活性化につながることを、今後起こるかもしれない食糧危機を助けてくれるという仮説を立てました。

2（地域活性化のために）

私たちが考える、地域を活性化するために必要なのは人の興味をひくことと考えます。

そのために、まずは活動を知ってもらうには興味をひくことを伝え、その興味をひくことができれば地域が活性化し、その結果として活動が活性化することにつながると考えました。

この活動は、活動を行う一歩を踏んで低学年の児童に自分たちの意見を積極的に発表してもらい、それと同時に自分たちの活動内容が地域活性化につながることを、今後起こるかもしれない食糧危機を助けてくれるという仮説を立てました。

【地域探究プログラムのシステムを利用し報告書を作成】

学校にて、地域探究プログラムのシステムを利用し実践活動報告書を作成

- ・課題の設定と意図についてまとめる。
- ・課題解決のための仮説と計画をまとめる。
- ・活動で工夫できたこと、学びや気づきをまとめる。
- ・今後の展望、新たな取り組みについてまとめる。

【作成した報告書の一部】

【作成した報告書をもとに地方ステージに出場】

希望者は、報告書を活用し地方ステージに参加

- ・グループまたは個人で実践活動を発表
- ・近隣国立青少年教育施設の高校生と交流

国立青少年教育振興機構ホームページ

【地方ステージでの発表の様子】

【全国ステージの様子が一部ご覧になれます。】